



慶應義塾大学ビジネス・スクール

特殊混合ガスの価格設定

5

オリエント化学の北野課長の懸案は、三ヶ月後の価格自由化をひかえた特殊混合ガスの価格設定である。このガスは半導体製造のプロセスで使われるが、不純物が混入すると爆発する危険があるため、製造や取り扱いの品質が低下しないよう流通価格が公定されていた。最近ようやく製造・運搬技術が成熟し、公定価格が撤廃される運びとなったわけである。現在の公定価格は10

1グラムあたり 120 円であり、オリエント化学が市場の 80%をおさえ、オキシデント化学が残り 20%をおさえている。

このガスの市場規模は年間 10 トンである。このガスの需要は大変コストのかかる半導体製造の付帯物なので、たとえば 1 グラム 150 円以下程度の価格帯であれば、価格によって市場全体の需要量が変動するとは思われない。しかし、自由化によって供給者間に価格の差ができれば、需要家は同じ量でもより安い業者と取引したいはずである。供給価格に差がなければ、価格の水準に関わらず現在の 80%対 20%というシェアは変わらないであろう。しかし、価格差がある場合は、1 グラムあたりの価格が 1 円広がる度に、より低価格の業者は 2 パーセント・ポイントずつシェアを増やすであろう。(したがって、オリエント化学の供給価格がオキシデント化学より 10

20 円以上安ければ、オキシデント化学のシェアはゼロになるであろう。)

オリエント化学にとって、この特殊混合ガスの売上のうち 1 グラムあたり 80 円を超える分が利益である。また、このガスのシェアは他の製品の販売や利益に影響を与えないため、オリエント化学の方針はガス単品での利益最大化である。オキシデント化学にとっても

1 グラムあたり 80 円を超える分が利益になると見られ、単品での利益を最大化させる方針のようである。両社の利益構造や方針は、お互いに承知の事のように思われる。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールの大林厚臣助教授がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 大林厚臣 (1999 年作成, 2004 年, 2008 年 1 月改訂)